

頭山立雲伝も讀む

國分青崖

台閣たいかくにほん班せずこ炭たんにほう封せず

草莽そうもう夙つとにおも懐う天下てんかのうれ憂い

金鉄きんてつのせい精しん山さん斗とののぞ望み

立雲りつうんのふう風かく格なん南しゅう洲に肖たる

【作者】國分青崖（一八五七〜一九四四年）、宮城県仙台の人。名は高胤・字を子美・通称を豁（とおる）。別号を太白山人。明治・大正・昭和の大詩人。明治九年、上京し司法省法学校第一期生として入学。卒業前にストライキをして退学。同時に退学した者に、原敬・陸羯南・福本日南・加藤拓川、ら他日、名を成したものが多く、何れも皆、青崖を大切にした。

【備考】頭山満（とうやまみつる）（一八五五〜一九四四年）、安政二年四月十二日福岡で生まれる。昭和十九年十月五日静岡で没。

明治、大正、昭和の三代を通じての右翼の巨頭。大アジア主義者。福岡藩士筒井家に生れ、母方の頭山家を継いだ。福岡、高場乱の塾に学び、二十一歳のとき、西郷隆盛傘下の矯志会に加わった。のち萩の乱に関係して入獄、出獄後一時民権運動の先駆としてその一翼をになつたが、一八八一年平岡浩太郎、箱田六輔らとともに大陸進出を唱える玄洋社を起し、民権運動から離れた。頭山と玄洋社は、軍備拡張、強硬外交を唱え、日清、日露などの開戦の機運をつくるために運動した。またアジアの亡命政治家を庇護したり、孫文の中国革命への援助を行うなどアジア復興へ情熱を傾けたが、一貫して政治の裏舞台にいて、公職につくことはなかった。